



とやまケンキョーソ特命

SPは5分でできる
意識改革!

多忙解消

SP

セキュリティポリス
No. 18



バックナンバーが県教組のHPにあります

富山県の学校に人材不足の危機!

11月18日の北日本新聞の1面で教員志願者の減少が大きく伝えられました。教員採用試験の倍率が昨年度の3.4倍から今年度は2.9倍になり、教員の質の低下が危惧されていますが、もう一方で問題にしなればいけないことがあります!

志願者が1006人から888人に!

今年4月に県内の小中学校から「講師がまだ来ない」という声は何件も県教組に届きました。新聞では6月に20人程の不足があることが明らかになっています。昨年は採用試験受験者が約1000人で、合格者が約300人ですから、約700人の講師候補者がいました(それでも20人の不足があったのです)。今年の志願者は900人弱で合格者は300人ですから、講師候補者は600人弱!実に100人以上の減少です。来年の春には100人規模の講師未配置が予想されます。

講師が来ないと月10~40時間の負担が

1人の教員の労働力は時間外勤務も含め月240~260時間程です。1人の人員減で、20人の教員数の学校だと1人平均10数時間の時間外勤務時間の増加が起こります。もちろん平準に配分はできませんから、教務主任や学年主任、同学年の先生に+30時間、+40時間と負荷がかかります。今よりさらに毎日1時間半、2時間と帰るのが遅れます。

業務を減らすしか道はありません

方法は2つ「人を増やす」か「業務を減らす」かです。しかし、人を増やそうにも「人」自体がないのですから、業務を減らすしか道はありません。私たちの分析によると※、時間外勤務を増加させている業務は「研修」「行事」「成績処理」「部活動」です。この中で削減が可能なものはあるのでしょうか?

(※文部科学省 2016 教員勤務実態調査の結果から分析)



多忙解消SPメンバー紹介「もしも10連休あったら・・・」

 委員長 能澤 英樹 家の中の不要物を全部捨て、あとは寝てすごす。	 書記長 湯浅 慎治 温泉旅行か海外旅行。景勝地や美術館巡り。	 書記次長・富山支部担当 平山 志郎 我が家の「断捨離」です!	 魚津支部担当執行委員 寺島 豊和 スポーツ観戦&温泉巡り	 高岡支部担当執行委員 林 誠 第2の故郷バングラデシュに里帰り	 砺波支部担当執行委員 正来 晋 第2の故郷ブラジルに里帰り。したいけど日数不足	 特別支援担当執行委員 林 伸恭 家族や友人と屋外でアクティブに過ごす。
---	---	---	---	---	--	--

「まずできる」削減は研修です！

確かに研修は大切です。しかし過重な部分や効率の悪い部分を削減することで、子どもに直接影響がなく、保護者に理解を求めることもなく時間の短縮が可能です。

研修の負担を減らす3つのアイデア

①研究紀要を作らない

研究紀要をやめた学校がありますが、先生方は「無くても全く問題は感じない」と言われます。製本して外部に出す場合は文章の点検にも非常に時間と労力がかかります。研究紀要をやめ、先生方の冬休みの宿題がなくなると考えると負担軽減の効果は絶大です。

②全員1回の研究授業をやめる

指導主事訪問以外にも全員が1回の研究授業を行う学校が多いようです。確かに成果もあるのですが、研究授業の準備のために普段の授業に集中できなかつたり、他の先生の授業を見るために自習が多くなつたりして、マイナス面も大きいです。普段の授業に研修の重点を置いたところ、2年間で学校の平均点が5点上がったという例もあります。

③指導案を大胆に簡略化する

ある先生に指導案にかかった時間を記録してもらいました。教材研究、指導案作成、検討会など全て含めると20時間に上りました。例えば箇条書きで、①ねらい、②主発問、③手立て、④評価、⑤授業の視点などを書けば時間は半分以下になるでしょう。文章の点検、修正にかかる時間も一気に削減できます。すでにやっている学校もあります。

業務削減は重要な危機管理！

この3つで削減できる時間は、研究紀要で10時間、一人一授業で30時間、指導案で10時間として計50時間。1か月平均4時間ちょっと。月80時間の時間外勤務時間を76時間にするのがやっとです！小さな削減で「やったつもり」になるのは危険です。

代員が来ないと多忙は一気にレッドゾーンへと突入します。みんなで知恵を出し合って、業務削減をし、危機に備えましょう！

各学校で「校内多忙化解消推進会議」の開催を！

富山県教組はこれからも削減案を提案していきます！今回は「行事削減」の予定

多忙反対！家庭第一のイクメン教師
つき
剣マモルが行く！
槍杉校長のイメージアップ作戦！の巻



教員志願減少

倍率2.9倍と初めて3倍切った

ブラックなイメージ



《青年部の方へお知らせ》

12月27、28日開催の「青年フォーラム」では、働き方・教え方に関するあなたの思考に革命を起こす2人の講師が来ます！現在、日本各地の講演で絶賛されているお二人です！一泊で参加費は無料！詳細は県教組HPから！

